

# 田中勝先生へ贈る言葉

A Congratulatory Message to Prof. TANAKA, Masaru

大島 正克\*

OSHIMA, Masakatsu

---

---

田中勝先生は、2015（平成27）年3月31日をもって、亜細亜大学経営学部ホスピタリティ・マネジメント学科の非常勤講師を定年退職されます。ここに謹んで田中勝先生への贈る言葉を述べさせていただきます。

2009（平成21）年3月まで、経営学部にはホスピタリティ専攻がありました。当時、ホスピタリティ専攻の人気が高まっており、また、経営学部内におきましても従来からホスピタリティ専攻をさらに充実させ新学科にしたいという希望がありましたので、2006（平成18）年4月、小生が経営学部長を拝命したことを契機として、横山・岡両先生を中心に新学科設立へ向けて活動を開始いたしました。ホスピタリティ関係ではとりわけホテルに人気が集集中しておりました。文部科学省への書類提出のなかで優秀な先生の実績は重要な要素です。専任の岡久行先生が中心となってホテル関係の指導をしておられましたが、新学科設立に向けてホテルという中心分野のさらなる充実が求められました。そこで、ホテル分野におきまして日本ではもちろんのこと世界でもトップクラスの田

\*本学経営学部教授

中勝先生をお願いすることができましたことは、我々にとりましては大変幸運なことであり、亜細亜大学経営学部のその後のホスピタリティ教育にとりましても大いなる財産となりました。

田中先生は、2007（平成19）年4月1日から、非常勤講師として亜細亜大学に来られることになりましたが、1年目は、小生の専門が会計学でありますため、講師室にてご挨拶させていただくくらいしか田中先生との接点はありませんでした。2009（平成21）年4月に経営学部の新学科としてホスピタリティ・マネジメント学科がスタートいたしました。当時経営学部長を引き続き拝命していた小生は、小生の責任のもとに新学科がスタートするということから、また会計学ご担当の教授が突然ご退職されたという事情から、新学科に会計学の担当として加わっておりました。以上より2008（平成20）年10月の新学科として初めてのAO入試にも小生は参加することになりましたが、小生が田中先生と親しくお話をさせていただくようになりましたのは、そのAO入試のときからだったかと存じます。とにかく、見た目に似合わ

ず（失礼いたしました）ユーモアがお好きなのです。AO入試での受験生に対する質問もなかなかユーモアがあるのです。かといってちゃんと的を射ておられます。センスの良さに驚きました。世界のホテル業界で勝ち抜いてこられた方というのは、このような資質がなければなれないのかとつくづく実感いたしました次第です。

新学科がスタートして、小生も1年生の「会計学」とともに3、4年生向けの「ホスピタリティ管理会計」を担当することになりました。管理会計をホスピタリティ産業に特化した科目です。それまでの小生の管理会計はどちらかというと製造業中心のものでしたので、教える傍ら自らも勉強するという状況にありました。ホスピタリティ管理会計の中心領域はホテル会計です。とくに通称USALI (Uniform System of Accounts for the Lodging Industry；米国ホテル会計基準) というホテル会計基準が国際的（外資系）には重要な会計基準となっております。USALIは1926年、ニューヨーク市ホテル協会によって設定されて以来、アメリカの主要ホテル運営会社（ヒルトン、シェラトンなど）が国際的に進出するにあたって用いてきたホテル会計基準であるだけに、経験がないと容易には理解できるものではありません。内容的には管理会計領域のなかの責任会計・セグメント会計に属する領域なので、フレームワークは何かと分かるのですが、その実務的意義や有用性については、そう簡単には分かるものではありませんし、文献に書いてあるものでもありません。

田中先生は毎週水曜日の朝、大学に来られます。講師室をまっすぐ入って一番奥に、いつもいらっしゃいました。小生は、よく、先生にご挨拶かたがた、ホテル経営や上記のUSALIについて質問をさせていただいたものでした。そして、さらりとおっしゃったお答えは、小生にとりましては珠玉の言葉でした。とくに日本の一般のホテルとマネジメント会社が運営するホテルの違いを強調し

ていらっしゃいました。また日本のホテルにおいては根幹となる会計システムの不透明さも嘆いていらっしゃいました。小生も、USALIはホテル運営会社のための会計基準であることを改めて認識致しました。先生が、「USALIはホテル運営会社が損をしないようにできている」とおっしゃっていたことが脳裏に沁み込んでいます。小生も田中先生がおっしゃった見方や考え方を今後も大いなる糧としてUSALIの研究に励みたく存じます。

先生は、外国に行く前から同時通訳の資格を取得されていたと聞いています。失礼ながら、アメリカにも行かないで、なぜ、同時通訳ができるほどの英語力が身についたかをお尋ねしたことがあります。先生は「別にアメリカに行ったから英語がうまくなる訳ではないよ。自分は24時間、起きているときはラジオなどでずっと英語を聞いていた。意思の問題だよ」、とおっしゃいました。おそらく筑駒・早大政経学部の学生時代から、ずっと英語を聞いていらっしゃったからでしょう。だからこそ、外資系のホテルであるホテル・インターコンチネンタル・東京ベイや横浜グランド・インターコンチネンタル・ホテルにて総支配人というホテルのトップをお勤めになることができたのだと思うに至りました。

先生はシャイな方なのか、目立つのがお嫌いな方なのか、先生の送別会を開催したいという皆様からの懇願もすげなくお断わりになったため、残念にも田中先生の送別会はありませんでした。送別会の有る無しにかかわらず、我々の先生に対する感謝の気持ちはいささかも変わるものではありません。先生とお出会えできたお陰様にて、多少USALIも分かるようになって参りました。心から御礼を申し上げます。

本当に有難うございました。田中先生！ いついつまでもお元気でお過ごしください。